Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～
（Ref No:26-20）

１　太平洋諸島フォーラム（PIF）の全加盟国が世界の海底通信ケーブルネットワークに接続され、地域のデジタル基盤が大幅に強化された。豪州は 2018 年以降 5 億豪ドル以上を拠出して 1 万キロ超の敷設を支援してきた。これにより、高額な通信コストや通信障害などの脆弱性といった遠隔島嶼部の長年の課題を解消することができる。安定した通信インフラは、投資の呼込み、生産性向上、またデジタル経済の拡大にますます重要となっている。
原文
（8th October 2026, Pacific Business Review）

２　台湾海巡署（CGA）は、コーストガード外交の一環として巡視船 2 隻をパラオに派遣した。10 月 6 日にマラカル港に入港し、同国の海上警察職員を同乗させた上で、同 9 日よりコロール島の南西約 200 海里のパラオ排他的経済水域（EEZ）において合同パトロールを実施した。本活動を通じて、台湾海巡署船艇における史上最南端の活動記録を樹立した。パラオは独立したコーストガードを有しておらず、海上警察が米沿岸警備隊との連携や日本からの支援により IUU 対策や捜索救難活動に取組んでいる。
原文
（12th October 2026, Taipei Times）

３　米国は、中国とつながりのあるハッカーが本年 7 月から 8 月にかけて、フィジーのスバにある地域組織にサイバー攻撃をしていた疑いがあるとして、フィジー政府に警告した。太平洋地域の政府、多国間組織、通信ネットワークが標的にされるパターンと同様であり、中国の情報機関等に機密情報が漏れる可能性を指摘した。これに対し中国は、当該主張は政治的な動機に基づき、中国と太平洋諸国との間に不和を煽ることを目的とした偽情報であると否定した。
原文
（13th October 2026, PACNEWS）
原文
（14th October 2026, RNZ）

４　10 月 8 日、パプアニューギニア警察は、ポートモレスビーにある半自動小銃や銃器部品、製造設備などの隠し場所を押さえた。マニング警察長官は、この隠し場所が国際的な銃器密売組織と関連していること、また、国際宅配便を利用して分解した銃

器部品を密輸するなどし、密輸の調整役を務めていた男を逮捕し拘留中であると発表した。
原文
（14th October 2026, RNZ）

５　10 月 11 と 12 日の 2 日間、フィジーのスバにおいて、インドネシア海軍の病院船による医療サービスの提供が行われ、504 人が受診した。船上では、フィジー保健省との協力のもと、一般診療、歯科治療、放射線検査、非感染性疾患のスクリーニングが行われた。同船はこの後、ソロモン諸島、パプアニューギニアを訪問する予定である。
原文
（14th October 2026, Islands Business）

６　マーシャル諸島議会で、船舶不足による外郭離島の窮状への対応が議論の中心となっている。同国海運公社が運航する 4 隻のうち、整備や退役により 1 隻を残すのみとなる中、10 月 10 日に主力船が強風で座礁・沈没した。その後の議会において、ハイネ大統領は、新たな船舶 2 隻の支援について日本政府と協議していることに言及した。日本政府は 2010 年代半ばに MV Majuro と MV Kwajalein の 2 隻を供与している。
原文
（16th October 2026, The Marshall Islands Journal）

７　パラオは海洋調査や海洋監視の強化に向け、太平洋諸島海洋観測システム（PacIOOS）から提供された同国初となる観測ブイ 2 基を設置した。これらのブイで観測した波や気圧、水温などの海洋データは、オンラインで公開され、研究活動の促進や、市民の気象・海況に関する意識向上に向けた取組みに役立てられることとなる。
原文
（16th October 2026, Island Times）

８　10 月 10 日、中国の北京で開催された第 6 回中国・太平洋島嶼国政治指導者対話において、フィジー代表団を率いたラブナワ保健・医療副大臣は、国際協力は協定や外交上の宣言ではなく、人々の生活の改善によって評価されるべきだと述べた。また、中国との協力は太平洋地域の優先事項、地域連帯、国家主権を尊重しつつ、青い太平洋大陸のための 2050 戦略を補完するものでなければならないと強調した。
原文
（17th October 2026, Fiji Sun）

９　10 月 16 日、シンガポール、インドネシア及びマレーシアは、回転基金委員会の下で演習訓練を実施し、マラッカ・シンガポール海峡における石油流出事故対応における連携強化を図った。演習はシンガポールの第 17 回石油流出訓練に先立ち実施され、

シンガポール領海で発生した船舶衝突事故により石油が流出し、その後インドネシアとマレーシアの海岸に到達するというシナリオを想定して実施された。
原文
（19th October 2026, Manifold Times）

１０　米企業 MARTAC は 10 月 19 日、台湾海巡署（CGA）が同社の自立型水上艇を導入することを公表した。契約条件には共同生産方式であることが含まれており、一部は米フロリダ州で、残りは同社の台湾パートナー企業で製造される。同艇は、全長 8.4 メートル、50 ノットを超える最高瞬間速度を有し、 複雑な海洋環境下で活動する沿岸警備隊や軍事組織の幅広い任務を支援するように設計されている。
原文
（19th October 2026, Naval News）

１１　フィジーとニュージーランドは、無人水上艇を用いた合同洋上監視作戦を完了した。本作戦では、波力や太陽光、風力を動力源として自律航行する無人水上艇 2 隻を投入して 137 隻の不審船舶を特定し、更に 4 週間にわたり 24 時間体制での追加調査が必要とされた。同無人水上艇は高度な監視・測位・撮影システムを搭載しており、取得したデータは継続的に監視センターへ送信される。本作戦によりフィジー共和国軍は、地域内の海上交通量やパターンなどの活動状況をより正確に把握できるようになった。
原文
（19th October 2026, Islands Business）

１２　アジア開発銀行（ADB）は、中東情勢による燃料費高騰への対応として、キリバス、トンガ、ツバルへの計 4010 万ドルの支援を承認した。3 か国で総額 8000 万ドル以上の経済的打撃が試算されており、本支援は、3 か国の脆弱な世帯を保護し、必要不可欠なサービスを維持し、エネルギー安全保障を強化することを目的としている。
原文
（20th October 2026, Islands Business）

１３　フィジーは 10 月 21 日、海洋安全保障戦略 2026-2035 を発表した。同種の戦略は太平洋地域で初となる。ティコンドゥアンドゥア国防大臣は、“時代遅れの法制度や関係機関の分断”が現代の海上犯罪への対応を難しくしていると指摘し、今回の戦略はこうした課題を克服するため、政府内の連携改善、海洋状況把握（MDA）の強化、そして海上における法的権限の明確化を目的としている。
原文
（21st October 2026, Fiji Sun）
原文
（22nd October 2026, Islands Business）

１４　10 月 13 日から 16 日の間、サイパンで開催された第 53 回太平洋諸島警察長官会議において、越境犯罪対策のための新たな組織である太平洋警察共同体（PACPOL）が正式に発足した。PACPOL は、太平洋諸島警察長官会議と太平洋警察イニシアチブを単一組織の下に統合するものであり、パプアニューギニアのマニング長官が初代議長となった。

原文

（22nd October 2026, RNZ）



One of the two liferafts and the boom.

Heine pitches Japan on two replacement vessels

From page 1

there was no wind. It was originally built in 1950 in Germany and retrofitted with sails in 2005.

"The success of the Kwai led to building of the Juren Ae," said Waan Aelon in Majel Director Alson Kelen.

At the time of its purchase, Wase said to SV Kwai: "I am happy, particularly as she is expected to play an important role in the promotion of our strive for a safer environment through the use of low carbon transport sailing vessels that help or support gas emission."

The idea for the RMI vessel Juren Ae was partly based on the success of the Tarmelu.

Meanwhile, at Nitijela earlier this week, President Hilda Heine commented on the floor that she and Foreign Minister Kalani Kaneko had both spoken to Japan government officials about funding two new vessels for the RMI.

Japan provided two vessels in the mid-2010s, the MV Majuro and the MV Kwajalein. Despite the climate advocacy of the RMI and calls for fossil fuel phase out, both of these vessels were diesel powered.

The President in her comments at Nitijela did not go into detail about the types of ships requested from Japan.

Upon learning the Tarmelu sank, a former crew of the Kwai, Leslie Cook, posted comments to social media: "An end to an era. Unfortunately, the sailing vessel Kwai has gone to Davy Jones' locker. To be clear all crew are safe. No one was on board when she decided to take a jaunt on her own during a storm. Although I have a heavy heart for a ship that always gave me a place to come home to, I am filled with gratitude for everything she gave us. From being found on an island in Amsterdam to sailing across the Atlantic, through the Panama Canal, and over to Hawaii, she was a workhorse. She served Kiribati and the Northern Cooks for over 20 years, she painstakingly hauled over a hundred tons of plastic out of the Pacific Gyre. I would not be the woman I am today without being part of the Kwai crew."

For the past two weeks, a lot of the debate at Nitijela has centered on hardships on the outer islands because of shipping woes.

Transportation Minister Hilton Kendall acknowledged that of the four operational RMI Shipping Corporation vessels, two needed dry docking and one needed decommissioning — meaning it was ready for retirement. This leaves only one.

Then Saturday, the Shipping corporation's workhorse vessel Tarmelu (formerly the Kwai) was blown off a mooring in the lagoon near Uliga Dock and ran aground due to the westerly waves and wind that slammed the capital last weekend. There were reportedly no crew on board the Tarmelu last Saturday when the storm hit.

After it was pulled off the reef and dragged a few hundred yards from Uliga Dock, it sank.

Shipping Corporation General Manager Danny Wase told the Journal that hull damage sustained from smashing into the reef caused the vessel to sink.

He said that fortunately copra was loaded onto another ship. But at Nitijela this week, members raised concern about copra on the vessel and also asked if it was insured.

Sometime after it sank Saturday, a couple of liferafts popped up from the Tarmelu, which is in about 100 feet of water. They likely popped free themselves.

Earlier this week, authorities aced a boom around the location of e sunken vessel to contain any fuel leases that rise to the surface.

Since the SV Kwai was purchased / RMI in 2021, and later renamed V Tarmelu, it was a regular service ovider for the outer islands, deliving passengers and picking up co-a. The vessel used sails when contions allowed, and an engine when

Continued page 2